

平成 24 年度第 1 回鹿児島市交通事業経営審議会 会議概要

○ 日程・場所・出席者

(日 程)平成 24 年 5 月 29 日(火)14:00～15:30

(場 所)市役所東別館特別中会議室

(出席者)委員 8 名

(事務局)交通局総合企画課

○ 会議の次第・配付資料

(会次第) (1)平成 24 年度鹿児島市交通事業特別会計予算について

(2)鹿児島市交通事業経営健全化計画重点取組項目等の平成 23 年度実施状況について

(配布資料) 資料 1 平成 24 年度鹿児島市交通事業特別会計予算

資料 2 鹿児島市交通事業経営健全化計画重点取組項目等の平成 23 年度実施状況

資料 3 新しい交通局局舎・電車施設について

資料 4 電車運行 100 周年事業について

別 冊 平成 24 年度鹿児島市交通事業特別会計予算書

(協議の概要)

(1)平成 24 年度鹿児島市交通事業特別会計予算について

委員の主な意見・質疑等	
1	<p>軌道事業も自動車運送事業も、23 年度と比較して営業利益が減る見込みとなっているが、これはどのような理由からか。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>23 年度当初予算は、新幹線効果により営業収益が増加することを見込んで計上したものであった。24 年度予算を計上する段階で、23 年度の途中までの経過を分析したところ、期待したほど営業収益が増加していなかったことから、24 年度当初予算は、23 年度当初予算よりも低く抑えて計上している。</p>
2	<p>新幹線効果というのは期待したほどではなかった、というのが現時点での評価でいいか。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>通常の路線バスについては、それほど効果は表れていないが、周遊バス(シティビュー)や定期観光バスについては、2 割から 3 割ほど利用者が増えており、大きな効果があったと考えている。電車についても、若干乗客が戻ってきている傾向にあり、新幹線全線開業によって、入り込み客等が増えてきたことによるものでないかと感じている。</p>
3	<p>施設リニューアルについて説明をする時に、『市民』という言葉をよく使っていたが、この施設は、観光客も多く呼び込める施設になり得るのではないかと思う。その辺りはどのように考えているか。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>利用者の中心はやはり『市民』になると思うが、観光客を含め、多くの方に親んでもらうために、資料展示館をさらに充実させて博物館のように整備したり、他都市では試運転線を利用した電車の体験運転を試みているとのことなので、試運転線を利用してこのような試みを行うことも考えているところである。できるだけ皆さんに楽しんで頂けるように、今までとは違った視点で施設づくりを行っていきたい。</p>

委員の主な意見・質疑等	
4	<p>100周年を迎える12月1日は、ちょうど色々なイベントが息切れする時期である。この時期に観光客や鉄道マニアを呼び込めるようなイベントをもっと考えられないか。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>路面電車は単なる輸送機関の一つではなく、桜島などと並ぶ鹿児島市の観光資源の一つでもあるというスタンスで、色々とPRしていきたいと考えており、12月1日に開催される『ゆーゆーフェスタ』というイベントの中でも、観光客に楽しんで頂けるようなことを何かできないかと検討しているところである。また、この時期は九州レイルマンスにも重なるので、そういうものとも合わせてPRを行っていききたいと考えている。</p>
5	<p>24年度から北営業所・桜島営業所の管内で管理の受委託が始まっているが、その経費節減効果はどのように表れているのか。自動車運送事業の営業外費用が減っているところからは節減効果が出ているようにも見えるが、人件費の関係する営業費用には節減効果が見られない。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>自動車運送事業の営業費用には、管理の受委託による人件費の削減分と、管理の受委託に係る委託料の両方が入っており、それぞれを差引すれば効果は出ているのだが、営業費用の数字には、その他の様々な事業に係る費用も含まれているため、管理の受委託だけの効果が見えるような数字にはなっていない。全体としては、軽油価格が上がっていること等の理由により、営業費用が前年度よりも増えている状況である。</p>

(2) 鹿児島市交通事業経営健全化計画重点取組項目等の平成23年度実施状況

委員の主な意見・質疑等	
1	<p>昨年に、乗車をお願いするシールをバス停に貼ったが、その効果は表れているのか。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>バス停や電停、バス・電車車両に掲示したほか、ラジオ番組などでも取り上げて貰ったので、かなり認知はされてきていると考えているが、数値的に効果を示すのはなかなか難しい。ただ、健全化計画の中で定めていた目標効果額を概ね達成できるのではないかと感触はつかめているところである。</p>

	委員の主な意見・質疑等
2	<p> 接客マナーの強化に取り組んでいるとのことだが、運転手の中でも、挨拶をする方としない方の差がとても大きいと感じる。研修の内容は、ただ先生の話を聞くようなものなのか、それとも挨拶の練習など実践的なものになっているのか。 また、接客マナー賞の表彰については、どのような基準で選定しているのか。 </p> <p> (事務局回答) 接客マナーについては、日頃からバス事業課、電車事業課それぞれでも指導を行っており、それに加えて接客の仕方や意識の改革等についての研修を行っている。 表彰の対象者の選定については、交通局モニターや一般の方から寄せられる意見、運転士を管理する側の職員からの推薦等を参考に、審査会の中で選考する形をとっている。 </p>
3	<p> 職員からの提案や交通局モニターから寄せられた意見が、具体的にどのように活かされているのか、施策に反映されているのか、というのがなかなか見えてこないように感じる。職員から出たアイデアが定着し、評価されていることを知ることによって、職員が次のアイデアを考えてみようという動機づけになると思う。 このような提案やモニターの意見がどのように活かされているのか、教えて欲しい。 </p> <p> (事務局回答) 現在の取組みの中では、ラピトレカの作成や電車教室などが、職員提案の中から実現した事業である。 直接提案が活かされたものもあれば、その提案をヒントとして発展させる形で活かしていったものもあるが、提案がどのような形で活かされているのかを知ることが職員の意欲を高め、動機づけにもなるため、表彰を行うだけでなく、さらに職員間で情報の共有化を図ることが大事であると考えている。 職員提案を審査する委員会等では、どのような提案があったということは認知されているが、職員に対する周知という形ではあまり取り組んでいないので、今後は情報の共有化についても取り組んでいきたい。 </p>

4 健全化計画に基づく取組の評価の一つとして、取り組んだかどうかという基準によって評価しているが、より重要なのは、取り組んだことによつてどのような効果があったのかを測定することにある。部分的には効果額によって評価することになっているが、より多くの項目について、数値化したもので評価することを考えていただきたい。

(事務局回答)

健全化計画の中で示している目標効果額については、計画を作成した時点で数値化できたもの、その中でも百万円以上の額で数値化できたものを掲載している。それ以下の効果額しか見込めないものを含め、次回の審議会においては、できるだけ数値化したものを示し、どれくらいの効果があったか、ということを確認していただける形で報告したいと考えている。